

第7回 石巻市震災復興基本計画市民検討委員会

1. 日時・会場

平成23年10月12日（水）16時～18時30分 石巻市役所 庁議室

2. 検討委員会委員

別紙名簿のとおり

3. 事務局からの報告

- ・ いしのまき農業協同組合代表理事組合長の交代により委員の変更がありました。本日、所用により石川委員は御欠席されていますので、後日、事務局から委嘱状を交付します。

① 委員長あいさつ

- ・ 久しぶりの委員会ですが、今回の検討委員会は議論すべきことが多くあり、また、議論する最後の機会だということでもよろしくお願ひしたいと思います。

② 要旨

◆議題1【今次津波の概要について】

(委員)

- ・ TPは何の略ですか。

(基盤整備課長)

- ・ 東京湾平均海面です。

(委員)

- ・ 津波と波浪は違いますので、市民にはその違いも含めわかりやすく説明してください。

(委員)

- ・ L1とL2について説明をお願いします。

(基盤整備課長)

- ・ 頻度の高い津波をL1、今回の津波と貞観の津波という最大級の津波をL2といいます。

(委員)

- ・ 資料についてはTPで統一すべきではないでしょうか。

(基盤整備課長)

- ・ 統一することとします。KPはTPの-87.45cmになりますので、基準点がTPの方が低くなります。

(小野田委員長)

- ・ 進行上、議題4を先に進めます。先の意見がどのように計画反映されているかわかりにくいとの意見がありましたので、それをまとめたものについて説明をいただきます。

◆議題4【前回までの石巻市震災復興基本計画市民検討委員会意見に対する検討結果について】

特に意見等なし。

◆議題2【中心市街地街づくりプロジェクトからの中心市街地復興案について】

※尾形委員説明

(委員)

- ・ 一点目、市立病院の建設場所を旧市役所に限定するのは時期尚早と思います。二点目は、市の財政措置は大丈夫なのかと思います。三点目は、コンパクトシティ化は大賛成ですが、中心市街地の活性化と旧市街地の復興も合わせて進めていただきたいと思います。

(委員)

- ・ 市立病院については、現位置では問題があります。街なかの個人病院も被災していますので、そういった機能が中心市街地エリアにも必要と思っています。場所は限定しませんが街なかエリアへということで提案しています。

(小野田委員長)

- ・ 街なかへ、そういった機能が必要という意味で提案されたものと思います。次に財政に関してですが、私の私見ですが復興財源をどう有効に活用するかということですが、被災していない方々の血税を使うということもあります。コンパクトシティの観点については、被災していない地域も含めどのように復興していくのか、事務局からお願いします。

(市長)

- ・ 常に議論しています。被災地域は復旧、その他の地域についても地域バランスを見ながら進めていきます。地域自治システムが今年度から開始する予定でしたが、時期をみて立ち上げて行きたいと思っています。

(委員)

- ・ サンファン号の中瀬係留については、マンガ館と同じ場所に持ってくるという意味でしょうか。今月も29日に感謝デーということで地元はサンファンをキーに頑張っています。修繕に何十億もかかるので難しいということですが、あれをそのまま中瀬に持っていくということでしょうか。

(小野田委員長)

- ・ それはプロジェクトの委員から出た意見であって、市からは検討しますとの回答になっています。

(委員)

- ・ 地元で頑張っていますので、是非、今の位置でお願いしたいと思います。

(小野田委員長)

- ・ 踏み込んだ議論が必要です。委員の意見がそのまま通るということではなく、議論していきますということとなっています。下部組織でもそういった考え、提案をいただいていますので、修正すべきとの意見があればお願いします。

(委員)

- ・ 提言をどのように扱うのでしょうか。当委員会のメンバーにも表現は失礼になるかもしれませんが、こういった方々が検討すればこういった提言になるのだらうと思いますが、私は疑問があります。北上川の改修ということで例をあげれば、80年から100年の出水に対応した整備ということで進んできました。堤防を低くして欲しいという提案をいただいても、どうかと思います。その辺の整合性をどう取るのかということがあります。全流出した市民からすれば水と親しむといった表現を共感し、理解されるものなのではないでしょうか。北上、雄勝、牡鹿はどうするのでしょうか。市の復興計画でするので、どのように取り扱うのでしょうか。

(小野田委員長)

- ・ PJの位置づけは、独立性が強く、どうやったら自立再生できるのかという観点から、行政にどうやって整備してもらえれば民がリスクをとってでも推し進めるというかなり踏み込んだ提案と思います。

(浅野副委員長)

- ・ PJ自体は委員会の了承を得て設置し、提言を取りまとめました。この提言は皆さんに切り刻まれるものではなく、資料2と同様に受け止めて、検討するのは行政になると思います。そういった提言だと思います。

(小野田委員長)

- ・ ここで議論すれば総論になりますので、各地域の課題に特化した議論し難い部分があります。局所における最適界が相反する、違うという考えもあって文面を少々直して欲しいという議論をするのがこの場だと思います。相反する部分があれば計画に整合性を持たせて取り入れていただくということになると思います。2頁の①はかなり挑戦的な書きぶりになっています。また、プロジェクトマネージャーをまんぼうに等々、突っ込んだ話もあります。しかし、そういったことをしなければ復興できないという状況もあります。どうしても納得がいかない部分等があればご指摘願います。

(委員)

- ・ 私の地区には会長会というものがあり、行政区長もいますが行政区長は何もやらず、会長会が物事を決めていきます。何回も津波の被害を受けているのに、それを数メートル嵩上げして、そこに家を建てましょうということを繰り返しているのを私は嫌いました。若い人たち、横浜にお住まいの方々などの意見もいただいて決めてきました。民間の意見を取り入れず、石巻の商店街の方々で決めてしまうと同じ町ができてしまうと思います。でも、それが良いか悪いかはわかりません。現状で、排水ができていませんので、石巻の川を掘って水位を低くすれば良いのではないかと思います。

(小野田委員長)

- ・ 内水排除は地盤沈下していますので、必要だろうと思います。

(浅野副委員長)

- ・ 中心部にはポンプ場がありません。自然排水でした。それをちゃんとして欲しいということを書いています。この提言を批判するのではなく、行政に意見を出して、行政に取捨選択いただくべきものと思います。

(小野田委員長)

- ・ 建設的に意見を言うことで良いものとしていく訳であり、批判している訳ではありません。

(委員)

- ・ 検討委員会の委員の名簿がありますが、私は牡鹿全体をどうすれば良いかという代表として会議に出ています。中心市街地の活性化は私たちには関係ない部分があります。市立病院の位置について、女川も壊滅的な被害を受けていますので、鹿妻の高台に移転して欲しいというのが半島部の市民の意見です。

(小野田委員長)

- ・ あるエリアの方々が考えたものを見て議論いただく場です。牡鹿、雄勝もそういった考えを議論していますので、間に合えば議論する場になると思います。

(委員)

- ・ 当協議会としても別に計画を考えていますので、その部分も入れていただきたいと思います。中央部の人だけでなく、外の人からの声もありますので、そう言った意見を最終的に私たちが提言する土台に乗せていただければいいと思います。

(委員)

- ・ 震災直後から街なかも活発に議論が進められ、大学生、ボランティアの方々からの意見もいただいています。今月末からプランを公にし、多くの方から意見をいただくような場を作って行きたいと思っています。今ある案はどんどん組み入れて行きたいと思っています。

(委員)

- ・ 中心市街地だけという意見もありますが、一点集中して、まずそこから復興して波及させていこうという考えで進めています。それでともにがんばっていこうと思っています。サンファンに関しては石巻市内の観光資源が分散していますので、著しい被災からの復興に向け、集約も必要と思います。

(委員)

- ・ 平成6年に石巻に来ましたが、サンファンは中瀬に置くべきと思っていました。しかし、渡波の方からすれば心の拠りどころになっています。これが表に出れば、絆を大事にしようとしている中で、対立してしまうのではないかと思います。サンファンパークをどう生かすかという考えも持って進めていかないといけないと思います。

(委員)

- ・ 安全と安心をコンセプトに、二度とこういった被災を受けないようにしたいと思って参加しています。絶対の安全はありませんが、絶対に限りなく近づける必要があります。この委員会は、その原理原則は外すべきではないと思います。そういったコンセンサスを得られるような会議とする必要があると思います。安全と安心なくして景観はないという私の考えです。

(委員)

- ・ 安全安心は大事ですし、犠牲もこうむっていますのでそういった考えも大事です。今回の津波はL2ですので、1000年に1回おきるものへハードで備えるのではなく、L1はハードでL2はソフトで守るべきと思います。

(委員)

- ・ 価値観は多様ですので、この場で取りまとめようとするのは難しいと思います。委員会として認めることで、全て同意したとするのか、それとも、こういった提言があったということにするのかだと思います。最終決定は市、市議会になりますので、ここで全ての合意を得るのではないと思います。その前提で進めないと議論がまとまらないと思います。

(小野田委員長)

- ・ あえて皆さんの考えをお聞きしたところです。計画の参考資料として、内容全てを認めたのではなく、議事録として残りますということにするかを議論すべきと思っていました。災害のリスクについてですが、1000年に一度のL2対応の堤防等を作ってメンテナンスをしても100年程度しか持ちません。専門家の弁によりますと400年後程度に再び起きる確立があります。数十年に1回ということであれば孫、子に被害が及ばないようにしましょうということになります。また、地域によってもそのリスクなどに対する考えも違います。

(委員)

- ・ 地震津波に強いまちづくりは必要ですが、魅力あるまちづくりも必要です。津波が来るまでに時間がありますので、その情報を伝えられなかったことが残念です。高層ビルや避難路といったハード整備でなく、情報伝達をいかにすべきか、それを考えるべきです。行政がリードしたまちづくりを進めていただきたいです。ディズニーランドなどのような面的に統一されたまちづくりを進めていただきたいです。是非、先駆的なまちづくりを進めていただきたいと思います。行政がすすめるものはリスクではありません。また、世界的なまちづくりを進めるのであれば、世界からデザインコンペを行うことで、内外からの注目を浴びることもできます。エコタウンの推進に組織化するという一方で、石巻が後発的になるのか北九州は三菱等が支援に入っています。今回はIBM等の支援を受けるということですが、世界の知識を借りられれば良いと思います。女川町では国際地震・津波センターをとの考えがあるようですので、それが無いようであれば石巻で進めるべきと思います。同時に、人・技術・コミュニティーを毎年世界中から表彰する祭典と、自然災害対策技術の進歩に伴い、産業見本市の

開催なども考えられます。いずれ、無い袖は触れません。予算配分がどのようになされていくのか、かなり厳しい財政状況になりますが、交付税がどうなるのか、しっかりと分析していただきたいです。財源が裏づけされなければ絵に描いた餅になります。

(市長)

- ・ 世界のデザイナー、建築家の力を借りようという考えもあります。3次補正が出てきませんと見えてきませんが、財源がなければ事業化もできませんので、民間活力を生かす必要があります。復興協議会も今日設立しましたので、北九州をモデルとするのではなく、それを超えるものになりたいと思います。

(浅野副委員長)

- ・ 提言を委員会の総意にする必要はないと思います。プロジェクトとしての考えということで市に検討いただきたいと思います。この委員会だけでもいろいろな意見があります。

(小野田委員長)

- ・ 他地域も同様に計画があれば、この場で議論することも必要かと思います。

◆議題3【水産物地方卸売市場及び水産加工団地興推進会議からの提案について】

※伊妻委員説明

(委員)

- ・ 水産業は基幹産業のひとつであり、安全な場所を探し、早急に復旧したいと考えている。被災状況によって再開した事業者もいますが、私の工場は壊滅状態であり、今の加工団地の状況からしますと衛生的な観点から現在地での復旧は難しい状況です。再開できる場所を探していますが、なかなかありません。新たな団地の整備等について、市の考えをお聞かせください。

(産業部長)

- ・ 食品産業が大きなウェイトを占めていますので、災害時の一リスク分散の意味からも必要かと思います。あらたな工業団地も必要であろうと考えていますので、内部で議論して行きたいと思います。

(委員)

- ・ 11月から牡蠣むきや今月末からはわかめの種付けも始まります。放射能線量の測定はどのように行うのでしょうか。

(産業部長)

- ・ 東北大を中心に東北の海域で生産された水産物の線量測定は行われていますが、市場、買受人組合も測定をこれから行おうとしています。安心の確保に向け、早急に市独自測定とするか等を検討していきたいと思います。

(市長)

- ・ 測定できる体制もありますので、なかなか難しいことも理解していただきたいと思います。

(委員)

- 県の復興計画は今議会で決定されるようですが、我田引水にならない書きぶりになっていますが、特3漁港として大きな被災を受けていますので、もっとインパクトを強く、復興計画の中に位置づけをしていただきたいと思います。

(小野田委員長)

- 位置づけは市の対応となりますので、意見を反映し入れられるものは入れていただくこととなると思います。

◆その他

(復興対策室長)

- 今後のスケジュールですが、計画は11月末を目標としていましたが、国予算、堤防高もあり遅れておりますが、11月にはパブリックコメント並びに各地域での説明会等があります。11月はじめまでに次回会議を開催したいので、日程調整をさせていただきます。

(小野田委員長)

- 次回会議は最後ですね。

(復興対策室長)

- 素案を初旬に示し、パブリックコメント後にもう一回開催したいと思います。

(小野田委員長)

- ここで配付されても議論できませんので、事前の資料配付をお願いします。

◆浅野副委員長あいさつ

- いよいよ後2回という、最終段階に入りました。
- このような意見を述べられる機会を設けていただいたことを感謝したいと思います。民主主義は手間と時間がかかるものだと思いますが、委員としては最後これだけは言いたいということを考え、実り多い会議にして立派な計画が策定できるよう頑張りたいと思います。

以 上